

社会の動き、郷土 学ぶ

高校の教室に新聞を

各校の取り組み紹介



気になる記事をチェックする野辺地西高校の生徒たち

野辺地町の八戸学院野辺地西高校（橋場保人校長）は、県内の私立高校で唯一の総合学科設置校。生徒たちの個性、志望に合わせて専門科目を選択し、学べるのが特徴だ。早くから進路を意識すること「新型コロナウイルスの感染

で、生徒たちが情報収集のために教室に置かれた新聞を手取る機会も多い。3年生の代表が利用法を紹介した。看護師を目指す田村亮丞さん（17）は「子どもや保護者ともコミュニケーションをとれるようにな

状況に関心があり、新聞を読んで正確な情報を得るようになっている」。横山蓮佳さん（17）は「保育士になりたいので、世の中の出来事を知り、子どもや保護者ともコミュニ

情報収集の手段定着 野辺地西



選挙権持ち 報道に関心

▽教養進学系列3年 町屋紅斗さん（18） 18歳になって初めて選挙権を得たので、衆院選挙に関する報道は関心を持って読みました。それとスポーツ大会の記録、他校の成績も気になり、よく読みます。

りたい」。沢口風鈴さん（18）は「新聞を読んで気になるニュースをチェックし自衛隊の面接に備えた」と話す。

同校はサッカー、空手、レスリングなど部活動も盛ん。空手道部主将の鎌本圭史郎さん（18）は「東京オリンピックでは空手競技の記事、写真がどのように載っているか楽しみでした」。レスリング部主将の鈴木愛彩さん（18）も「レスリングは五輪で各選手が活躍したので皆さんの人が見てくれたと思う」と振り返る。

（三浦博史）

る。スクールバスや電車で通学している生徒たちは、待ち合わせの時間をうまく使っている。八戸市から通う峰彪流さん（18）は「朝早く学校に着いた後など、空き時間を利用して新聞を読んでいます」。

3学年主任の金田浩季教諭は「毎日新聞を読むと情報の点と点がつながり、知識が蓄積する。読むくせをつけてほしい」と継続することの大切さを強調した。